

シラバス（講義概要）

芸術工学基幹科目

芸術工学特論 A

前期・必修・2単位

Advanced Study of Arts and Design A

担当教員 黄國賓、大内克哉、榮元正博、寺門孝之、見明暢、田頭章徳、田口史樹、高台泳、森岡希世子、秋山伸、末房志野

授業の目的と到達目標（学修成果）

＜授業目的＞芸術工学の基幹科目として、人類による自然界に対する考察を通して生み出されたかたちや空間を理解し、現代の科学技術と芸術文化を融合させた環境、アート、デザイン、メディアの専門分野の枠組み、その広がりや境界を再認識する。

＜到達目標＞表現の多様性と表現の技術を理解し、科学技術と芸術文化を融合する芸術工学の基礎となる専門知識を身につける。

授業計画の概要

自然界に潜む点・線・面・立体によって生み出される幾何学的構造の法則や製作技法、色、かたち、素材、空間構成の魅力を理論的に分析考察し、講義やワークショップによりデザインのプロセスを学ぶ。履修のまとめとして、未来社会が求める新しいかたちの文化生態的価値を仮説・考究する。

芸術工学特論 B

後期・必修・2単位

Advanced Study of Arts and Design B

担当教員 萩原廣高、藤山哲朗、山之内誠、笹崎綾野、長野真紀、津田徹、岡本弘毅、森山明子、金箱淳一、松村秀一、佐野浩三、谷口文保

授業の目的と到達目標（学修成果）

＜授業目的＞芸術工学の基幹科目として、社会や生活環境、現代の価値観を構成する多様な分野における造形及びその背景にある理念の歴史的展開や文化的諸相を、講義とワークショップを通じて学ぶ。

＜到達目標＞現代の科学技術と芸術文化の創発と融合、多様な表現と創成など、芸術工学のもつ領域横断的な視座と方法論を身に付けることにより、それらを自らの研究テーマに適用して新しい考え方や発想をひき出し、多面的な思考によりデザインを展開できるようになることを目標とする。

授業計画の概要

建築、生活空間をはじめとする多様な分野においてデザインと研究を実践する各教員から、オムニバス形式でそれぞれの取り組みや研究視点について学び、芸術工学の根幹をなす領域横断的な視座と方法論を身に付ける。

芸術工学特論 C

通年・選択・2単位

Advanced Study of Arts and Design C

担当教員 長野真紀、山之内誠、津田徹、黄國賓、森山明子、金箱淳一

授業の目的と到達目標（学修成果）

＜授業目的＞研究計画における論文構成や資料の扱い方、研究方法、研究倫理などについて基本的な方法論を学ぶ。

＜到達目標＞論文執筆に関する基本的な研究方法、研究計画を検討し、研究のスケジュール、関連する専門領域の枠組みを理解できる。学会発表を通して当該分野の先行研究や動向を把握し、研究の位置づけを明確にする。

授業計画の概要

博士後期課程の研究における基礎的な方法論、思考能力を講義と演習（学会発表参加）、リサーチにより身につける。

具体的な授業内容、スケジュールは、履修者の専門領域に合わせて可能な範囲で調整する。

科学と技術特論

前期・選択必修・2単位

Advanced Study on Science and Technology

担当教員 金箱淳一、松村秀一、平田一郎

授業の目的と到達目標（学修成果）

＜授業の目的＞デザインとアートの創造性と構想力を豊かに支える科学的知見と技術の可能性について考える。

社会や生活空間・環境を構成する様々な分野での実践において、科学と技術が生み出す魅力、環境や社会と創造の相互作用について専門家の経験と新たな試みから学ぶ。

＜到達目標＞科学的知見と伝統的な技能から最新のテクノロジーまでの技術がもたらす表現の可能性を学び、それをデザインとアートにおける創造力に展開する力をつけ、表現と社会とのつながり方をとらえることができるようになる。

授業計画の概要

技法・工法とかたち、ロボティクスと環境、人間工学・人間中心設計、伝統建築とリノベーション、環境デザインとパブリックアート、仮想空間などの分野において先進的取り組みで活躍する研究者、デザイナー、建築家による実践的講義とワークショップなどにより構成する。

授業を通じて、科学・技術と表現の広がりを実践的に学ぶ。

芸術と文化特論

後期・選択必修・2単位

Advanced Study on Arts and Culture

担当教員 笹崎綾野、明和電機

授業の目的と到達目標（学修成果）

各講師の作品や専門分野の概要や魅力について理解し、その創造のプロセスやテーマについて認識を深める。各講師の作品や専門分野の概要や魅力について説明できる。現代の芸術文化の可能性や課題について論じることができる。

授業計画の概要

芸術文化に直接触れる授業である。表現意欲を刺激する魅力的な専門家を招き、それぞれの芸術の論点や活動を学び、創作や伝統の実践を理解し、受講生各自の創作活動や研究活動の豊かな糧とすることを旨とする。まずは担当講師の専門分野や作品について講義を行い、その理解をさらに深めるためにワークショップや現地見学を実施する。グループワークやディスカッションを適宜織り交ぜながら、体験的な深い学びを目指す。